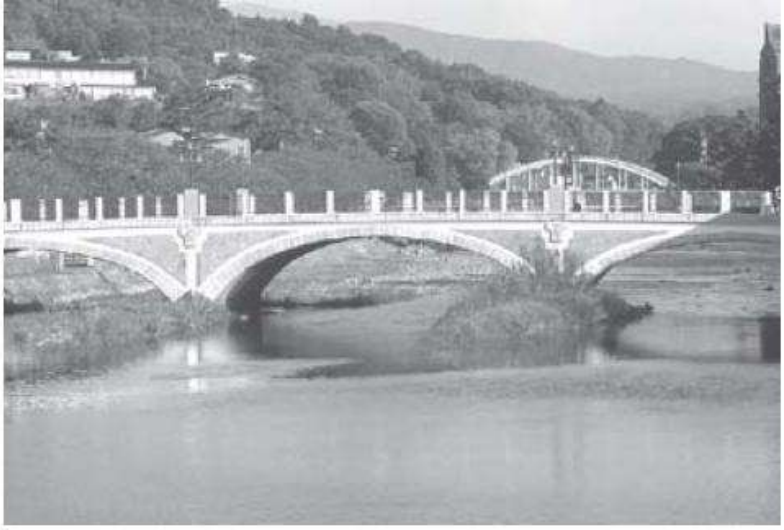
浅野川・小橋コース

郷愁誘う浅野川「暮色に染まる繊細な川模様」

暮れなずむ浅野川の光景は、心を感傷的にさせます。古くからのまちなみの影が川面に滲み、川風が水面に波紋を描きます。浅野川界隈がつむぎだす歴史や文化が金沢を代表する自然景観を創出しています。

浅野川大橋 ➡ 泉鏡花記念館 ➡ 久保市乙剣宮（くぼいちおとつるぎぐう） ➡ 主計町（かずえまち） ➡
主計町緑水苑 ➡ 中の橋 ➡ 彦三緑地 ➡ 小橋 ➡ 浄光寺・西善寺 ➡
文学の故郷碑 ➡ 秋聲のみち



●浅野川大橋

国の登録有形文化財の浅野川大橋。重厚さの中に古き金沢の喧噪（けんそう）を彷彿（ほうふつ）とさせるロマンが感じられます。この界隈では、春には「浅野川園遊会」が開かれ、水芸や多彩な伝統芸能が披露されます。

●尾張町かいわい

大橋から橋場町方面へと進みます。文豪・泉鏡花の生家跡に「泉鏡花記念館」が建っています。町家造りを活かした館内に鏡花の遺愛品の数々が展示されていて、幻想的な鏡花の世界に出会える空間となっています。

この界隈には、実際に懐かしいＳＰ盤の音を聴くことのできる「金沢蓄音器館」や「金沢文芸館」、「菓子文化会館」などがあり、薫り高い文化を堪能（たんのう）できます。

●久保市乙剣宮から暗がり坂へ

鏡花が詠んだ歌碑が残されているのが「久保市さん」の愛称で親しまれている久保市乙剣宮です。境内には、樹高20mにもなるケヤキがあり、枝葉を大きく伸ばし、浅野川の川面に映える主計町のまちなみを際立たせる役目を果たしています。

暗がり坂は、久保市乙剣宮から主計町に続く石段で、日中でも暗いことからこの呼び名がつきました。坂を下りた左手に泉鏡花の小説にちなんだ「照葉ざくら」が植えられています。

●主計町

全国で初めて旧町名が復活した主計町。命名の由来は、大坂冬の陣に功をたてた加賀藩士・富田主計の邸地があったことからこの名がついたといわれています。文学の舞台としてもよく描かれており、情緒あふれるまちなみの風情や古くからの茶屋街の気品が色濃く残されています。

主計町緑水苑は、池泉回遊式庭園（ちせんかいゆうしきていえん）にみたて、金沢城の内堀であった「西内惣構堀（にしうちそうがまえぼり）」を活かした潤いのある庭園です。シダレザクラや樹齢200年を

越すといわれるタブノキが見事です。中の橋を右にみながら歩を進め、小路に入ります。旧母衣町界隈から彦三緑地に向かいます。

●彦三緑地

彦三緑地は、加賀藩主ゆかりのツツジ（遠田のツツジ）を中心に、ノトキリシマやアケボノツツジなど多数のツツジ、ボタンやフヨウなどが観賞できる日本庭園風の緑地です。緑地内にある土蔵は、ツツジを中心とした情報ギャラリーとなっています。見頃は４月、ツツジが競い合い咲き誇る様は必見です。この界隈では、加賀藩士侍屋敷の特徴を今に伝える「野坂邸」や彦三の大火で焼失を免れた光福寺のクロマツなどが知られています。

●小橋

再び浅野川沿いを下流に向け進みます。

小橋は藩政時代、犀川大橋、浅野川大橋とともに金沢の三ッ橋と呼ばれ、金沢城防衛上の重要な拠点でした。橋の下には堰が設けられています。この小橋可動堰は、中島用水と小橋用水の取水のためつくられました。浅野川を遡上する魚類に配慮して魚道もつくられており、アユやサケなどの遊泳魚が無理なく上流に移動できるよう緩やかな勾配に、また、ゴリやヨシノボリなどの底生魚への配慮として、魚道底には自然石が敷かれています。

●森山かいわい

東山界隈から東インター大通りを横断して森山界隈に歩を進めます。

浄光寺には、藩政期に植えられたものといわれているイチョウとクロマツの大木が２本ずつあり、今も大切にされています。また、西善寺の本堂裏のイチョウは、旧町名の名がつく「大衆免の大銀杏」と呼ばれ親しまれています。

●文学の故郷碑

城北大通りに出て東山方面へ。地下道を抜け馬場小学校に向かいます。

「文学の故郷碑」は、小学校と馬場校下にゆかりのある文豪（徳田秋聲・泉鏡花・尾山篤二郎）の記念碑で、三人の短歌や作品の一節が川端康成の筆で刻まれています。土塀をかたどった碑をアジサイやツバキ、フジなどの花々が彩りを深めます。

●秋聲のみち

中の橋から大橋へ「秋聲のみち」を進みます。このまま梅ノ橋たもとにある「徳田秋聲記念館」にぶらりと寄ってみるのもいいでしょう。